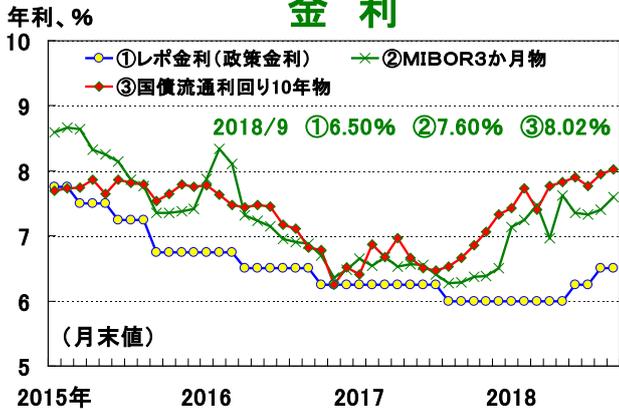


グラフで見るインド経済 2018年10月号(No. 106)

インド景気は総じて回復基調で推移している。OECD景気先行指数は、2018年1月に長期平均線を超え、その後も上昇を続けている。企業部門では、8月の輸出が前年比+19.2%と前月の伸び(同+14.3%)を上回った。また、9月の製造業PMIは52.2(前月は51.7)と14か月連続で中立水準の50を上回り、製造業の景況感は回復基調で推移している。一方、家計部門をみると、8月の新車販売台数は前年比-2.5%と、物品サービス税の導入(2017年7月)に伴う混乱を背景に前年同月の新車販売が大幅に増加した反動もあり、2か月連続で減少した。

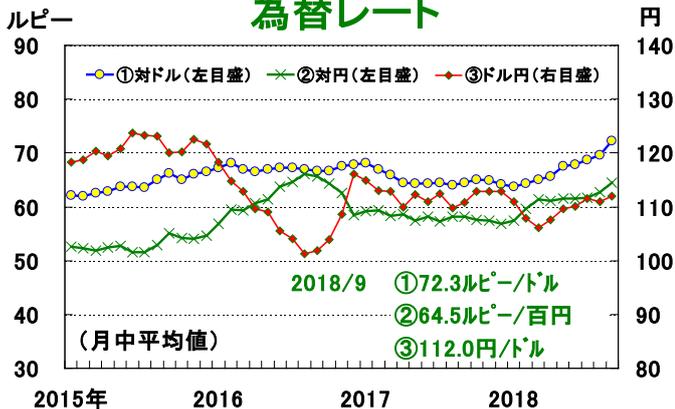
金利



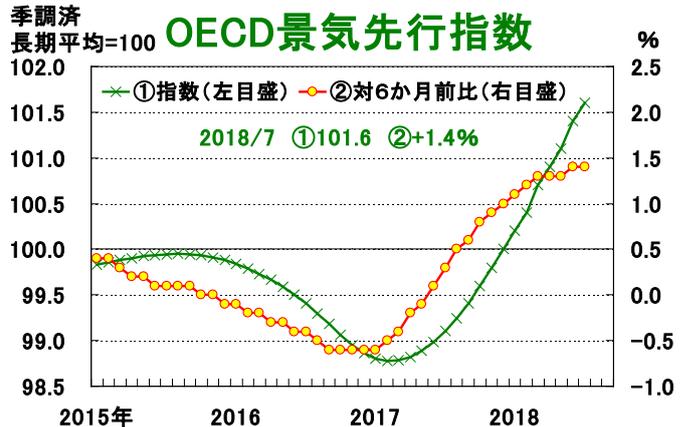
実質GDP成長率



為替レート



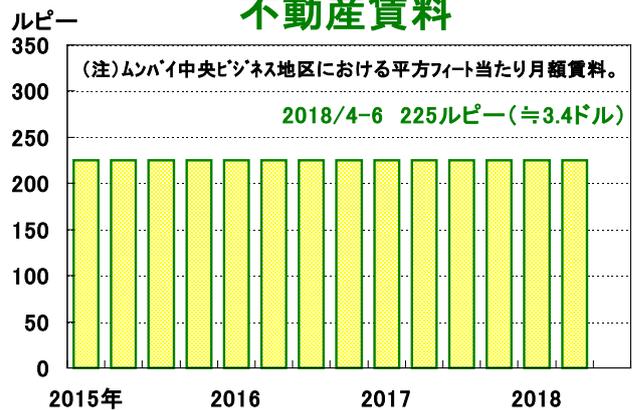
OECD景気先行指数



ムンバイ指数(株価)



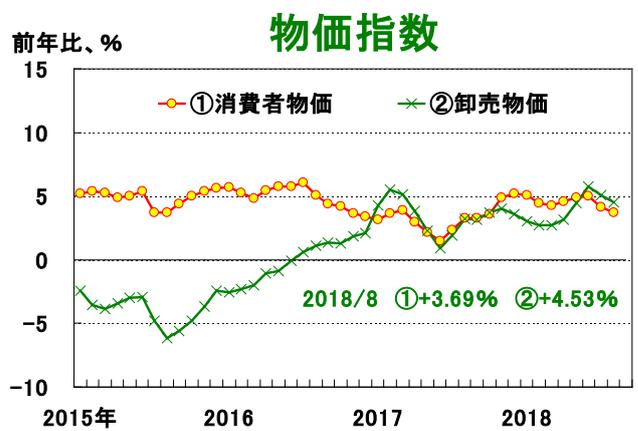
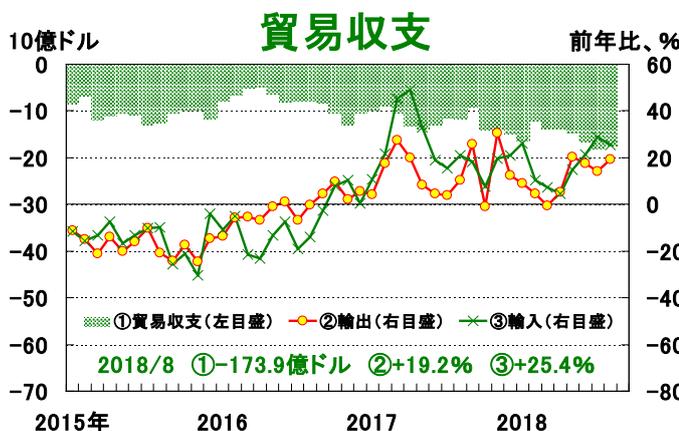
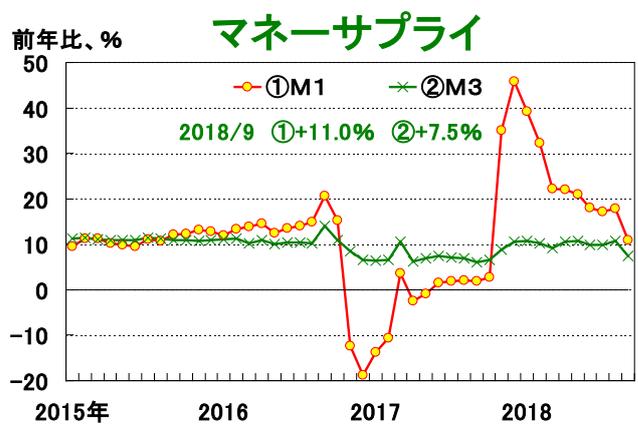
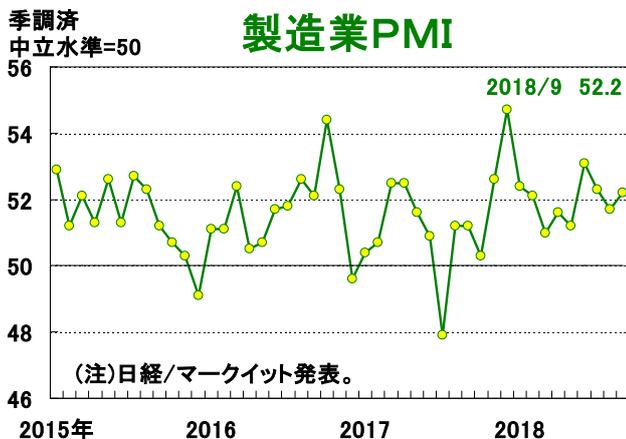
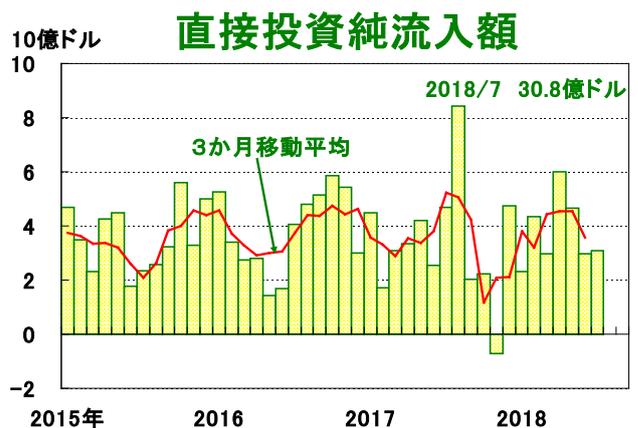
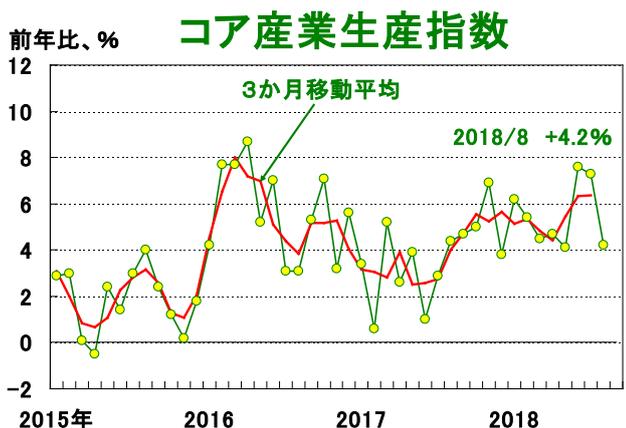
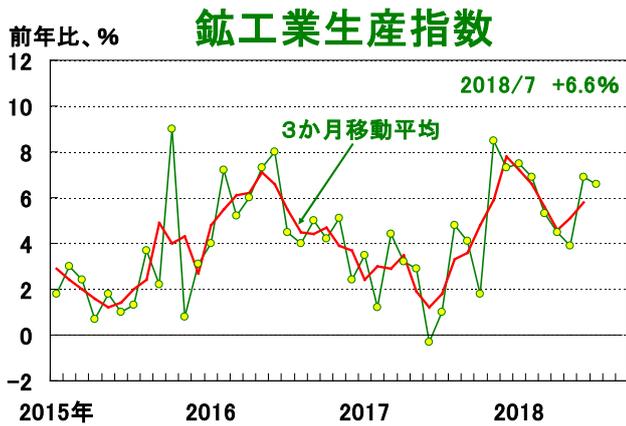
不動産賃料



【今月のピック:ルピー安でインド経済は加速】 2018年の年初以降、インドルピーは下落基調で推移している。8月以降はトルコリラの急落により、トルコと同様に対外収支赤字の大きい新興国通貨が売られ、ルピー安が加速した。ルピー安は原油をはじめとした輸入品の価格上昇を招き、インフレの要因となるものの、現状では輸出競争力の向上や企業収益の増加を通じて経済の拡大を加速させている。業種別にみると、輸入原材料を使用する製造業に比べてソフトウェア産業はルピー安効果の恩恵が大きく、業績が好伸している。企業業績の好調や株高を背景に、インドの個人消費は力強い動きとなっている。

(出所) インド準備銀行、インド統計・計画実施省、OECD、CEIC、ブルームバーグ

本レポートの目的は情報の提供であり、何らかの行動を勧誘するものではありません。本レポートに記載されている情報は、浜銀総合研究所・調査部が信頼できると考える情報源に基づいたものですが、その正確性、完全性を保証するものではありません。ご利用に関してはお客様ご自身で判断くださいますようお願いいたします。本レポートは情報提供のみを目的として浜銀総合研究所・調査部が作成したものであり、横浜銀行との何らかの取引を勧誘するものではありません。



(出所) インド統計・計画実施省、インド商工省・同経済諮問部・同通商情報統計局、インド自動車工業会、インド準備銀行、CEIC、ブルームバーグ

本レポートの目的は情報の提供であり、何らかの行動を勧誘するものではありません。本レポートに記載されている情報は、浜銀総合研究所・調査部が信頼できると考える情報源に基づいたものですが、その正確性、完全性を保証するものではありません。ご利用に関してはお客様ご自身で判断くださいますようお願いいたします。本レポートは情報提供のみを目的として浜銀総合研究所・調査部が作成したものであり、横浜銀行との何らかの取引を勧誘するものではありません。